平成２８年１２月１日
ＮＨＫ広報局

１２月会長定例記者会見要旨

Ｑ．この１年を振り返って
Ａ．（籾井会長）４月に熊本地震が発生し、先週は福島県沖を震源とする地震で津波を観測するなど、ことしも自然災害が相次いだ。ＮＨＫは放送やインターネットを通じて「命と暮らしを守る」報道に全力を挙げ、公共放送としての使命と役割を果たすことができた。また参議院選挙やアメリカ大統領選挙など国内外で大きな出来事が続いたが、正確かつ迅速に報道し視聴者の関心に応えた。

「真田丸」や「ブラタモリ」など看板番組がよく見られており、総合テレビは、上半期のゴールデンタイムの平均世帯視聴率がトップに立つなど各時間帯で去年を上回り、今年度、大規模な番組改定を行った成果だと考えている。

リオデジャネイロ・オリンピックも、大変よくご覧いただいた。ウェブとアプリで過去最大規模のインターネットを活用したサービスを展開し、大会期間中の動画再生回数は７５００万回を超えた。パラリンピックでは、競技の模様を録画でなく生中継で、ＢＳでなく地上波でお伝えした。今回の経験を生かし、４年後の東京大会に向けて準備を進めてまいりたい。

４Ｋ・８Ｋスーパーハイビジョンは、８月に試験放送を開始し、放送史の新たな１ページを開いた。２年後に開始予定の実用放送に向けてコンテンツの充実や施設の整備を進めている。

インターネットを活用したサービスでは、６月にＮＨＫニュース・防災アプリをリリースし、最新ニュースや気象・災害関連情報を提供するほか、緊急ニュースの同時配信などを行っている。昨年度に続いて２回目となるテレビ放送のインターネット同時配信実験「試験的提供Ｂ」を現在、実施しており、「いつでも」「どこでも」「どの端末でも」放送を楽しめる時代を見据えて課題を検証したい。

外国人向けの英語によるテレビ国際放送「ＮＨＫワールドＴＶ」ではアジアの情報発信を強化したほか、海外でも人気の高い大相撲

のダイジェスト番組を開始した。今後も日本の情報、地域の魅力を積極的に発信していきたい。

現在地での建て替えを経営決断した渋谷の放送センターについては、８月に基本計画を発表した。放送と通信の融合時代にふさわしい公共メディアへの進化を見据えたものにしていきたい。建て替えの原資が受信料であることを忘れず、「いいものを安く建てる」ための工夫を重ねたい。

営業面では、現経営計画に掲げた「支払率８０％」「衛星契約割合５０％」の目標達成に向け堅調に推移し、７月末に受信契約数が４０００万件を突破した。

この１年をあらためて振り返ると、ＮＨＫが放送と通信の融合時代にふさわしい“公共メディア”に進化するための基礎を築くことができた。これからもＮＨＫの挑戦と改革を進め、視聴者・国民の皆さまのご期待に応えてまいりたい。

（Ｑ．この１年で最も達成感を感じた仕事は）

Ａ．（会長）ひとつひとつのことに達成感を感じている。大きなものは放送センターの建て替えに伴う基本計画を作成したこと。これは今後のセンター建て替えのための大きな元になるものであり、非常に大事だ。放送の面では４Ｋ・８Ｋスーパーハイビジョンの試験放送開始、それにインターネットを活用したサービスの充実等々、いろいろなことをスタートさせたことは、新しい歴史を作る第一歩ではないかと思っている。役職員の一体感についても、経営として手応えを感じている。

Ｑ．２８年度第４期末の営業業績（見込み）について

Ａ．（会長）契約総数の増加は４７万８千件で、２８年度の年間計画５０万件に対して９５．６％、衛星契約の増加は５２万５千件で年間計画６３万件に対して８３．３％の進捗となる見込み。今年度も残り４か月となるが、契約総数増加、衛星契約増加ともに、堅調に推移しており、年間計画の達成が十分見通せる状況にあると考えている。

（詳細は報道資料参照）

Ｑ．第６７回ＮＨＫ紅白歌合戦８Ｋパブリックビューイングについて

Ａ．（会長）８Ｋの大画面によるパブリックビューイングを全国４か所で行う。会場は、東京・渋谷の「ＮＨＫふれあいホール」、横浜の「イオンシネマ港北ニュータウン」、大阪の「グランフロント大阪ナレッジシアター」、「ＮＨＫ熊本放送局」。先週まで行われていた大相撲九州場所に続き、紅白歌合戦も迫力ある８Ｋの映像と音声をお楽しみいただきたい。（詳細は報道資料参照）